

# **学習塾講師検定【集団指導1級】評価マニュアル (第1版)**

**社団法人全国学習塾協会**

## 目 次

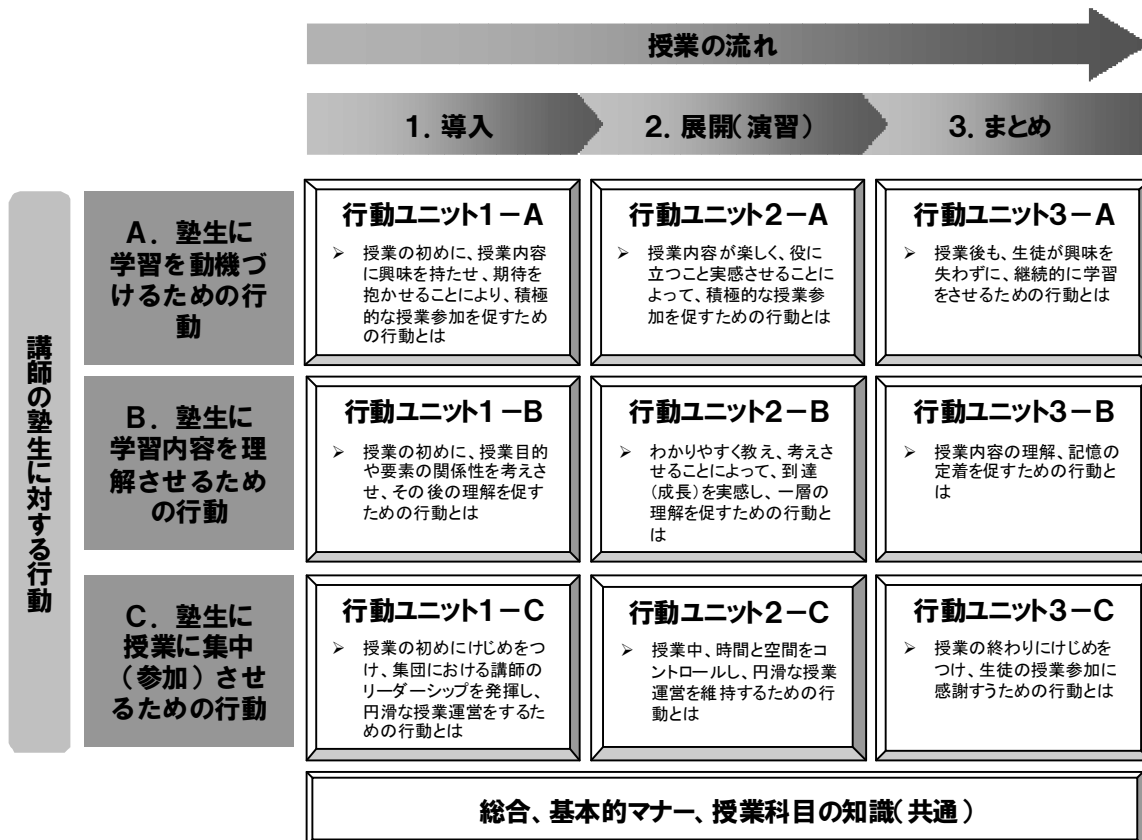
I. 評価項目・チェックシートの構成と一覧	3
II. 集団指導1級の判断基準など	4
1. 集団指導1級の評価チェックシート・配点(80点満点)	4
2. 集団指導1級の審査方法	7
(1) 採点方法	7
(2) 審査体制	9
(3) 審査手順	9

## I. 評価項目・チェックシートの構成と一覧

評価項目・チェックシートは、学習塾講師が授業を行う際に実施すべき行動（＝評価項目）を、『授業の流れ』＜横軸＞と『講師の塾生に対する行動目的』＜縦軸＞とで構成した“3行×3列＋共通1行”のマトリクス上で表現している。

本検定制度では、受験者である学習塾講師の授業を模擬授業映像データを通じて、それぞれの行動（＝評価項目）の良し悪しについて審査員が採点することにより、受験者の合否を判断するものである。

- ◇＜横軸＞ 授業の流れ = 「導入」→「展開」→「まとめ」の流れ。
- ◇＜縦軸＞ 講師の塾生に対する行動目的 = 「学習を動機づけ」「授業に集中させる」こと。その結果「学習内容を理解させる」こと。
- ◇＜共通＞ 総合評価、基本的マナー、授業科目の知識 / 等。



## Ⅱ. 集団指導 1 級の判断基準など

### 1. 集団指導 1 級の評価チェックシート・配点 (150 点満点)

評価に際しては、「有無法」もしくは「減点法」のネガティブチェックと、「加点法」のポジティブ評価により採点を行う<sup>1</sup>。

満点 **150** 点

#### Ⅰ. 導入

**32** 点

評価項目	問 題	や や 問 題	基 本 水 準	十分 充足
<b>A 学習を動機づけるための行動</b>				
<b>1. 授業の位置づけの明確化</b>				
・ 本日の授業内容は何をやるのかを説明している ・ 本日の授業内容と他の内容との関わりを説明している	0	-	4	-
<b>2. 授業内容に興味を持たせる工夫 (導入時)</b>				
・ 本日の授業内容について、生徒の興味を持たせる工夫をしている	0	-	4	5
<b>B 学習内容を理解させるための行動</b>				
<b>1. 導入時の説明・発問のタイミング</b>				
・ 最初の説明が、円滑な授業の展開を導くために適切なタイミングである	0	-	3	4
<b>2. 導入時の説明・発問の内容</b>				
・ 最初の説明は、適切な題材を用いて、わかりやすい説明ができています	0	-	3	4
<b>C 授業に集中 (参加) させるための行動</b>				
<b>1. 導入時の話し声</b>				
・ 惹きつけられるような話のリズム・強弱・緩急である ・ 一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである	0	3	6	9
<b>2. 導入時の態度</b>				
・ 表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、情報伝達を促している	0	2	4	6

<sup>1</sup> 具体的な採点の方法は後述。

II. 展開（演習）

61 点

評価項目	問 題	や や 問 題	基 本 水 準	十分 充足
<b>A 学習を動機づけるための行動</b>				
<b>1. 授業内容に興味を持たせるための工夫（展開時）</b>				
・ 本日の授業内容について、必要に応じて、生徒の興味を持たせる工夫をしている	0	-	3	5
<b>2. 授業中の激励など</b>				
・ 生徒の反応を想定した激励がなされている	0	-	4	6
<b>B 学習内容を理解させるための行動</b>				
<b>1. 適切な説明・発問・例示</b>				
・ 例示の説明（発問を含む）の回数・タイミングが適切である ・ 生徒の理解の定着を図るために工夫された説明（発問）がある	0	-	3	4
<b>2. 生徒の理解確認</b>				
・ 生徒の理解度を確認するための行動（発問や配慮）を実施している ・ 対象者の表情や姿勢、応答などから理解度を解釈し、確認している	0	-	4	-
<b>3. 説明、発問・確認・対応の流れ</b>				
・ 説明（発問を含む）・確認・対応の流れが理解を促すために適切である ・ 特に授業の要点などが明確にわかるように説明している	0	-	3	6
<b>4. 生徒の応答に対する対応</b>				
・ 生徒の応答を想定した配慮がなされている ・ 確認したことを活かした説明ができています	0	-	3	6
<b>C 授業に集中（参加）させるための行動</b>				
<b>1. 展開時の話し声</b>				
・ 聞いていて苦にならない話のリズム・緩急である ・ 一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである ・ 要点の説明時などが明確にわかるよう、話の強弱とスピードをコントロールしている	0	2	4	8
<b>2. 展開時の態度</b>				
・ 表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、情報伝達を促している	0	2	4	8
<b>3. 板書による説明</b>				
・ 文字がよく見えて、目的に応じた板書の活用に配慮している ・ 極端に長文の板書、極端に長時間背を向けた板書をしていない	0	2	4	6
<b>4. 講師の意欲・情熱</b>				
・ 講師の意欲や情熱・使命感が、生徒に伝わっていると思われる	0	2	4	8

Ⅲ. まとめ

30 点

評価項目	問 題	やや 問題	基本 水準	十分 充足
<b>A 学習を動機づけるための行動</b>				
<b>1. 授業の位置づけの再確認</b>				
・ 本日の授業内容は何をしたのかを説明している ・ 本日の授業内容と他の内容との関わりを説明している	0	-	3	-
<b>2. 授業内容に興味を持たせる工夫（まとめ時）</b>				
・ 本日の授業内容について、生徒の復習や次の予習を促す工夫をしている	0	-	3	4
<b>B 学習内容を理解させるための行動</b>				
<b>1. 生徒の理解確認</b>				
・ 生徒の理解度をなんらかの方法で最終確認している	0	-	3	-
<b>2. 要点の明示</b>				
・ 授業の要点などが明確にわかるように再度説明している	0	-	3	4
<b>C 授業に集中（参加）させるための行動</b>				
<b>1. まとめ時の話し声</b>				
・ 最後まで惹きつけられるような話のリズム・強弱・緩急である ・ 一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである	0	2	4	8
<b>2. まとめ時の態度</b>				
・ 表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、気持ちの良いまとめを促している	0	2	4	8

授業科目の知識、基本的マナー、総合評価（共通）

27 点

評価項目	問 題	やや 問題	基本 水準	十分 充足
<b>1. 総合（授業全体の構成）</b>				
・ 授業全体の構成が適切である	0	3	6	9
<b>2. 総合（生徒からの信頼）</b>				
・ 生徒から学習塾講師として高い信頼を得ていることが想定される	0	3	6	9
<b>3. 総合（教室全体の掌握と効果的な学習指導）</b>				
・ 教室全体を把握し、授業を進めることに配慮している ・ 生徒を再度集中させるなど、効果的な指導に配慮している	0	3	6	9
<b>4. 基本的マナー</b> (前提基準：問題有りとなった時点で、審査員の協議により不合格の判断がなされる)				
・ 不適切な言葉づかいがない ・ 身だしなみ、態度がよい	注	-	-	-
<b>5. 授業内容</b> (前提基準：問題有りとなった時点で、審査員の協議により不合格の判断がなされる)				
・ 授業科目の知識をしっかりと有しており、授業内容に誤りがない	注	-	-	-

\*注は10ページを参照。

## 2. 集団指導 1 級の審査方法

### (1) 採点方法

・それぞれの評価項目についての採点は、集団指導 2 級同様の「有無法」or「減点法」に加え、集団指導 1 級では「加点法」も採用されることになる。

◇ **有無法** 行動基準として記載されている具体的な行動がなされたか、行動の『有無』  
【無 地】 で評価。

- a) 行った場合 x 点 = 「基本水準」レベル  
b) 行わなかった場合 0 点 = 「問題」レベル

#### 有無法の例

A 学習を動機づけるための行動		問 題	や や 問 題	基 本 水 準
<b>1. 授業の位置づけの明確化</b>				
・本日の授業内容は何をやるのかを説明している	0	-	4	
・本日の授業内容と他の内容との関わりを説明している				
<b>2. 授業内容に興味を持たせる工夫（導入時）</b>				
・本日の授業内容について、生徒の興味を持たせる工夫をしている	0	-	4	

行動基準を満たさなければ「問題」  
// を満たしていれば「基本水準」

◇ **減点法** 行動基準として記載されている具体的な行動と照らし合わせて、問題なく行  
【ピンク地】 われているか、行動の『質をネガティブ』チェック。

※審査員は「基本水準」レベル<y 点>から採点をスタートし、

- a) 何ら問題がない場合 y 点 = 「基本水準」レベル  
b) 何らかの問題がある場合（問題の程度に応じて以下のとおり減点）  
ー 軽微な問題 0.5y 点 = 「やや問題」レベル  
ー 重篤・複数の問題 0 点 = 「問題」レベル

#### 減点法の例

C 授業に集中（参加）させるための行動		問 題	や や 問 題	基 本 水 準
<b>1. 導入時の話し声</b>				
・惹きつけられるような話のリズム・強弱・緩急である	0	3	6	
・一般的に聞き取りやすい声の大小、間、明るさである				
<b>2. 導入時の態度</b>				
・表情、立居、ふるまい、目線、等に違和感がなく、情報伝達を促して	0	2	4	

「基本水準」レベルから採点をスタート  
何らかの問題があれば「やや問題」→「問題」へと減点

- ・さらに、1級に限っては上記の2通りの方法に加えて「加点法」を併用する。
- ・加点法については、「評価指針」や「ベテラン講師などの行動事例」などを参考に採点を行う。
- ・加点法と有無法・減点法による評価を、同じタイミングに実施すると、当該項目のネガティブチェックとポジティブ評価が、ハロー効果<sup>2</sup>によりバイアスが発生するため、加点法の採点は、基本水準からのネガティブチェックである有無法・減点法による採点を終えてから実施するものとする。
- ・なお、評価指針や行動事例については、採点の都度、審査員の合意により拡充していくものとする（2010年度試験の暫定運用）。

◇ **加点法** 行動基準として記載されている具体的な行動と照らし合わせて、うまく行われているか、行動の『質をポジティブ』チェック。

※審査員は、2級相当である「基本水準」レベル<2点>を想定しつつ、基本水準レベルを超えた1級講師にふさわしい行動を行っている場合には「十分充足」レベルとして加点。

### 加点法の例

問題	やや問題	基本水準	十分充足
<b>B 学習内容を理解させるための行動</b>			
<b>1. 適切な説明・発問・例示</b>			
・ 例示の説明（発問を含む）の回数・タイミングが適切である	0	-	3 4
・ 生徒の理解の定着を図るために工夫された説明（発問）がある			
<b>2. 生徒の理解確認</b>			
・ 生徒の理解度を確認するための行動（発問や配慮）を実施している	0	-	4 6
・ 対象者の表情や姿勢、応答などから理解度を解釈し、確認している			
<b>3. 説明・発問・確認・対応の流れ</b>			
・ 説明（発問を含む）・確認・対応の流れが理解を促すために適切である	0	-	4 6
・ 特に授業の要点などが明確にわかるように説明している			
<b>4. 生徒の応答に対する対応</b>			
・ 生徒の応答を想定した配慮がなされている	0	-	3 4
・ 確認したことを活かした説明ができています			

「基本水準」レベル（2級相当）を想定し、それを上回ると評価できる場合には、「十分充足」レベルに加点。

<sup>2</sup> ある対象を評価するときに顕著な特徴に引きずられて他の特徴についての評価が歪められる現象のこと。例えば、行動基準を実施していても、パフォーマンスが良くない（表現が下手な）場合、それに引きずられ、実施の有無の評価までもゆがめられるようなケースが発生すること。



## (2) 審査体制

- ・審査員 : 3名  
※文系科目・理系科目担当者を各1名以上含む
- ・審査員資格 :
  - 一. 学習塾において10年以上の集団指導かつ5年以上の個人指導経験を有していること。
  - 二. 協会講師能力評価システム委員会から推薦を受けていること。
  - 三. 集団指導1級の資格を有する者。ただし、理事会の承認を得ている者はこの限りではない。

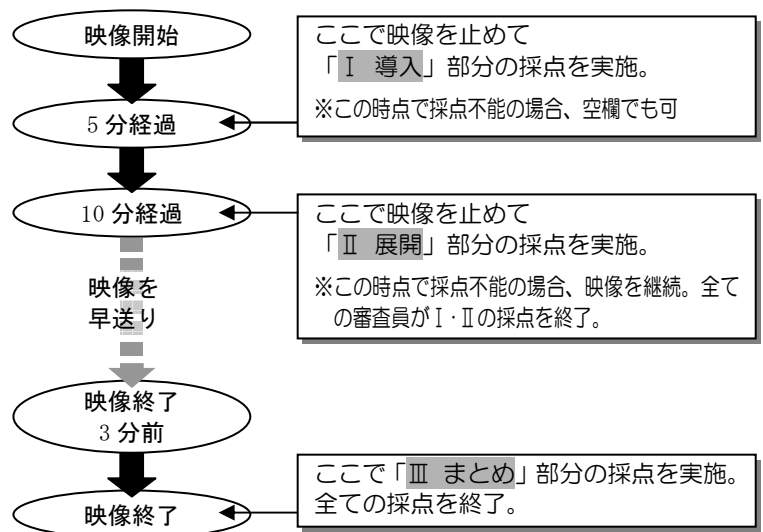
## (3) 審査手順

- ・各審査員間による評価の「ブレ」が生じないように、審査開始前に合格ボーダーラインとなる講師の模擬授業映像データ (DVD) を確認し、採用基準の目安をつける。
- ・特に、「認定要件」と「到達水準の考え方」については、審査基準の前提となる。審査前に再度振り返り、公正・公平な審査を行うよう努めることとする。

①審査員3名が一堂に会し、模擬授業映像データを観ながら「評価チェックシート」を用いて採点を行う。なお、「Ⅰ 導入」「Ⅱ 展開」「Ⅲ まとめ」それぞれの採点を独立して行うべく、以下の手順により模擬授業映像データ (DVD) を適宜再生・停止しながら、段階を追って採点していく方法を採用する。

なお、各段階において、まずは基本水準に基づいた有無法と減点法による評価を終え、その後加点法による評価を実施することとする。実施にあたっては、各段階ごとに審査員間で採点根拠の確認を行うことがのぞましい。

—「Ⅰ 導入」部分の採点は、模擬授業映像データ開始から5分経過時点で映像を止めて採点を行う。この時点で採点(判断)が不可能である場合はこの限りではない。全ての審査員が当該部分の採点を終えたら、模擬授業映像データの映像を再開する。



—「Ⅱ 展開」部分の採点は、模擬授業映像データ開始から10分経過時点で再度映像を止めて採点を行う。この時点で採点(判断)が不可能である場合は採点が可能となる時点まで映像をそのまま継続する。全ての審査員が当該部分(「Ⅰ 導入」部分も含め)の採点を終えたら、模擬授業終了3分前の時点まで映像を早送りする。

—「Ⅲ まとめ」部分の採点は、模擬授業映像データ終了3分前から終了時点までの映像を

再生して採点を行う。

- ②受験者の担当科目に合わせ、これを専門とする審査員が「共通項目3 授業内容」を判断し、この点数を他の審査員に伝達、審査員3名全員が同じ点数を記入する。
- ③審査員3名各自が総ポイントを算出するとともに、審査員コメントを記入する。なお、採点方法の違いによって評価項目毎のコメントの書き方を配慮する。
- ◇ 「減点法」による採点を行う評価項目：減点した箇所（映像時間・行動等）、その判断理由について、極力コメントを記載
  - ◇ 「加点法」による採点を行う評価項目：加点した箇所（映像時間・行動等）、その判断理由について、極力コメントを記載

### ■集団指導1級の合格水準の考え方

- ④審査員3名の総ポイントの合計点数が339点（150点満点×75%×3名）以上の場合には「合格」、338点以下の場合には「不合格」と判定する。
- ⑤ただし、合計点数が339点以上であっても、審査員のうち1名以上が106点を下回る採点を行った場合、審査員3名で協議の上、合否を判定する。
- 1級相当の学習塾講師として求められる行動基準の全てを満たしていると評価されれば、総ポイント150点（満点）となる。この75%にあたる113点を合格点として設定する。
  - また、評価の公平性・客観性を保つためにも、合否の判定は審査員3名の総ポイントの合計によって行うことが望ましく、「113点×3名=339点」を合否判定ラインとする。
  - ただし、3名の審査員のうち1名でも106点（単に、基本水準を全て満たした場合の点数）に達していないと判断する審査員が存在するのであれば、判断に至る理由等についての説明を得た上で、審査員3名による協議で合否を判定する。ただし、その協議の結果については、受験者に対して伝達するものとする。

---

注：「授業科目の知識、基本的マナー、総合評価」における評価ガイドラインとして、以下を用いる。

〈4. 基本的マナー〉において「問題有り」と特定する対象は次の通りとし、不合格の判断は、審査員全員の同意によって成されるものとする。

- ・ 著しくだらしない服装
- ・ 著しく肌を露出する服装
- ・ 著しく華やかなアクセサリー類
- ・ 著しい染髪またはピアスの装着
- ・ 著しく不潔な外貌
- ・ 差別的発言など人権に関わる言動

〈5. 授業内容〉において「問題有り」と特定するのは、審査員からの指摘によるものとし、不合格の判断は、審査員全員の同意によって成されるものとする。